



イメージ図からのコミュニティスクールの目指す姿

図の下の部分に南部地区の全ての大人、みんなで子どもを育てようという温かな地域があり、その中に1つの中学校と小学校があるという図になっています。地域は学校をふんわり包み込む座布団のようなイメージです。そこに3つの学校が乗っています。

小学校6年間、中学校3年間の義務教育期間9年間がスムーズにつながるよう、学校教育目標はもちろん、生徒指導、学習指導などでの情報を3校で共有し、その時々の子どもたちが困らないように考えることが大切です。

小学校は小学校で、同じ中学に行くことを見据えて、地域の力を借りながら教育活動を行い、中学校は中学校で、ある程度足並みがそろっている子どもたちの3年間でさらに充実し、自信を持って義務教育が終えられるように地域の力を借りながら教育活動を行ってほしい。小学校、中学校どちらの教職員も南部の子どもたちを育てているという意識をもちながら、日々の教育活動を推進することが大切です。

学校は地域の一部ではありますが、その全てではありません。何より大切なのは、自分たちの地域の子どもたちを、地域で育てようという南部地区の大人の意識です。家では保護者が、外では学校はもちろん地域の大人も関わりながら育てていく形が望ましいと考えます。難しいことではありますが、そのことを全ての大人がわかっておくことも必要です。

地域のイベントは子どもたちを育てる上で大きなきっかけになるはずです。南部地域には伝統的なイベント「夏祭り」や「運動会」や「文化祭」があります。南部地域全ての大人が、南部の子どもたちの横のつながりをつくるためにイベントを利用するという積極的な気持ちを持つことからスタートです。

子どもたちが「南部の子」として一体感を持ち、地域と共に9年間の義務教育を有意義に過ごし、胸を張って次のステップに向かえるようになってほしいという願いをかなえるために、まずは土南部小学校でコミュニティスクールの導入となりました。